



国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

2025年10月16日

第14回 リベラルアーツ連続講演会
(主催：豊橋技術科学大学 総合教育院)
講演者：山内 洋 (大正大学教授/文芸批評家)
「文学作品を読むことにいったいどんな意味があるのでしょうか？」

<概要>

豊橋技術科学大学総合教育院では、2021年度より「リベラルアーツ連続講演会」を開催しております。
その第14回として、11月13日(木)、山内洋氏(大正大学教授)による講演会を開催致します。

<詳細>

【日時】2025年11月13日(木) 14:40-16:10 (無料・A2-201 教室)

※事前申し込みは不要です。直接、会場へお越しください。

【講演者】山内 洋氏 (大正大学教授/文芸批評家)

【タイトル】文学作品を読むことにいったいどんな意味があるのでしょうか？

【講演者プロフィール】

大正大学文学部日本文学科教授。専門は日本近現代文学研究及び文芸批評。
高校国語の定番教材である『山月記』(「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」ゆえに人喰い虎になった李徴の告白話)の作者である『中島敦全集』(筑摩書房)の編集に二度かかわる。長く高校の国語教員として勤務した後、現職。副学長としては大学の教育改革や経営に携わった。「文学教育」や「高大接続教育」をライフワークとしている。



【講演要旨】

『人が頭の中で考えたに過ぎない「小説」を読むことにいったいどんな意味や価値があるのでしょうか？わたしは現実に役立つことにしか関心がない』—かつてある人から言われた言葉です。しかしながら、そもそもわたしたちの眼前の「現実」を成立させている基盤が何かを問うことにはとても意義がありますし、「役立つこと」(「私」や「皆」にとって良いこと、良いもの)の条件を問うことはさらに大切です。文学とは、じつはそうした高度な有用性を抱いた「実学」であることを皆さんとともに考えてみたいと思います。日頃「理系人材」として括られることに抵抗感を抱いていらっしゃる技科大生の方はもちろんのこと、「文学」の存在意義を再発見したい方など、広く皆さまのご参加をお待ちしております。

詳細は、以下のリンクになります。

https://las.tut.ac.jp/html_ja/mt_files/20251113-sl.pdf

本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報・地域連携室広報係 高柳・野本

TEL:0532-44-6506 FAX : 0532-44-1270

Email: kouho@office.tut.ac.jp



リベラルアーツ 連続講演会

主催 豊橋技術科学大学 総合教育院

2025年

11月13日 木 14:40-16:10

無料・A2-201教室

講演タイトル

文学作品を読むことにいったいどんな意味があるのでしょうか？

講演者：山内 洋 (大正大学教授/文芸批評家)

『人が頭の中で考えたに過ぎない「小説」を読むことにいったいどんな意味や価値があるというの？わたしは現実に関心がない』—かつてある人から言われた言葉です。しかしながら、そもそもわたしたちの眼前の「現実」を成立させている基盤が何かを問うことにはとても意義がありますし、「役立つこと」（「私」や「皆」にとって良いこと、良いもの）の条件を問うことはさらに大切です。文学とは、じつはそうした高度な有用性を抱いた「実学」であることを皆さんとともに考えてみたいと思います。日頃「理系人材」として括られることに抵抗感を抱いていらっしゃる技科大生の方はもちろんのこと、「文学」の存在意義を再発見したい方など、広く皆さまのご参加をお待ちしております。



【講演者プロフィール】

大正大学文学部日本文学科教授。専門は日本近現代文学研究及び文芸批評。高校国語の定番教材である『山月記』（「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」ゆえに人喰い虎になった李徴の告白話）の作者である『中島敦全集』（筑摩書房）の編纂に二度かわる。長く高校の国語教員として勤務した後、現職。副学長としては大学の教育改革や経営に携わった。「文学教育」や「高大接続教育」をライフワークとしている。

事前の申し込みは不要です。直接会場（A2-201）にお越しください。

お問い合わせ先：liberalarts_tut@las.tut.ac.jp